

2. 市場データ分析

197

データ分析の概要

本事業では、操業拡大により再び福島県産水産物の価格が低落する懸念があることから、価格動向の分析を行った。分析対象品目は、マアナゴ、ヤナギムシガレイ、ヒラメとした。

分析の趣旨

- 試験操業終了後の操業拡大によっては、価格回復しつつある福島県産水産物の価格が再び低落する懸念があることから、過去の漁獲量や価格データ等を用いて福島県産水産物の漁獲量の変動による価格動向を分析・調査する。

使用データ

- 東京都中央卸売市場が公開している「市場統計情報」から、品目別の市場取扱量と価格（1キロ当たり）のデータを使用した。

対象品目

- マアナゴ、ヤナギムシガレイ、ヒラメの3品目を対象に分析を実施。
 - 東京都中央卸売市場の統計等のデータがある品目のうち、シラスのように近年の漁獲量が少量である品目以外で、福島県産の主要な品目を選定。
 - 本事業の趣旨を踏まえ、カツオやサンマ・サバ等の沖合・遠洋の魚種ではなく、沿岸の魚種を対象とした。

備考

- 過年度の福島県産農産物等流通実態調査では「カレイ類」の価格を分析しているが、できる限り正確で実用的な分析とするため、より細かい分類からヤナギムシガレイを対象とした。

198

データ分析における確認事項

データの分析にあたり、市場取扱量と価格の関係や季節性、他産地の影響等について、規則性が見られるかを整理した。この規則性については、卸売市場内の卸売業者へのヒアリングで、認識に誤りがないことを確認している。

- 価格と取扱量の関係
 - 卸売市場で福島県産品の取扱量が多い月ほど、福島県産品の価格は低いという関係が、いずれの品目でも見られた。
- 他産地の影響
 - 「福島県品の価格」と「他県産品の取扱量」の関係性を見たところ、ヤナギムシガレイでは相関が見られた。
- 他品目の影響
 - 「マアナゴの価格」と「ギンアナゴの取扱量」など、他品目の量との関係を確認したが、明確な相関を持つ品目は見られなかった。
- 価格と季節性の関係
 - 毎年同じ月には値段が高くなるといった季節性が、いずれの品目でも見られた。

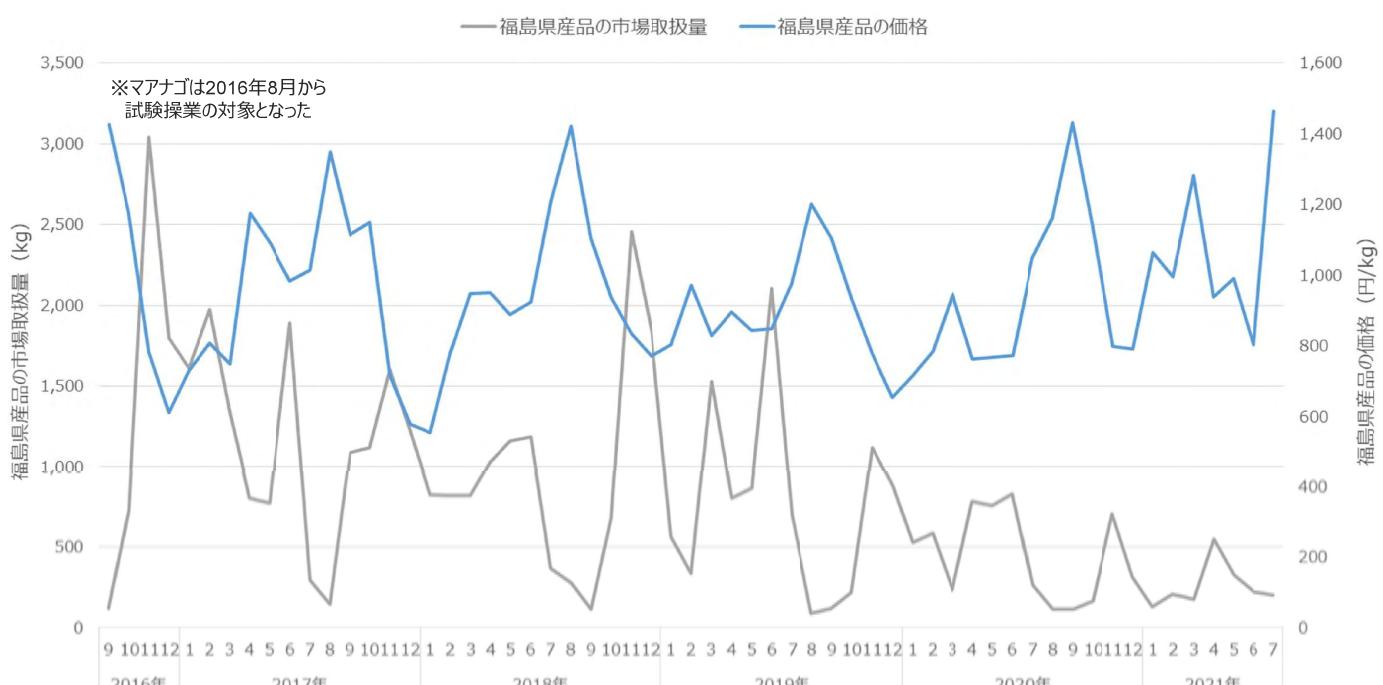
これらの規則性を確認した上で、福島県産品と他産地産品の取扱量や季節性が、どの程度価格に影響するかを分析した。

199

マアナゴのデータの概観

東京都中卸売市場のマアナゴのデータから、市場取扱量と価格に負の相関があることや、夏に高値となる季節性があるという規則性が見られた。

東京都中央卸売市場における福島県産マアナゴの取扱量と価格（実績）



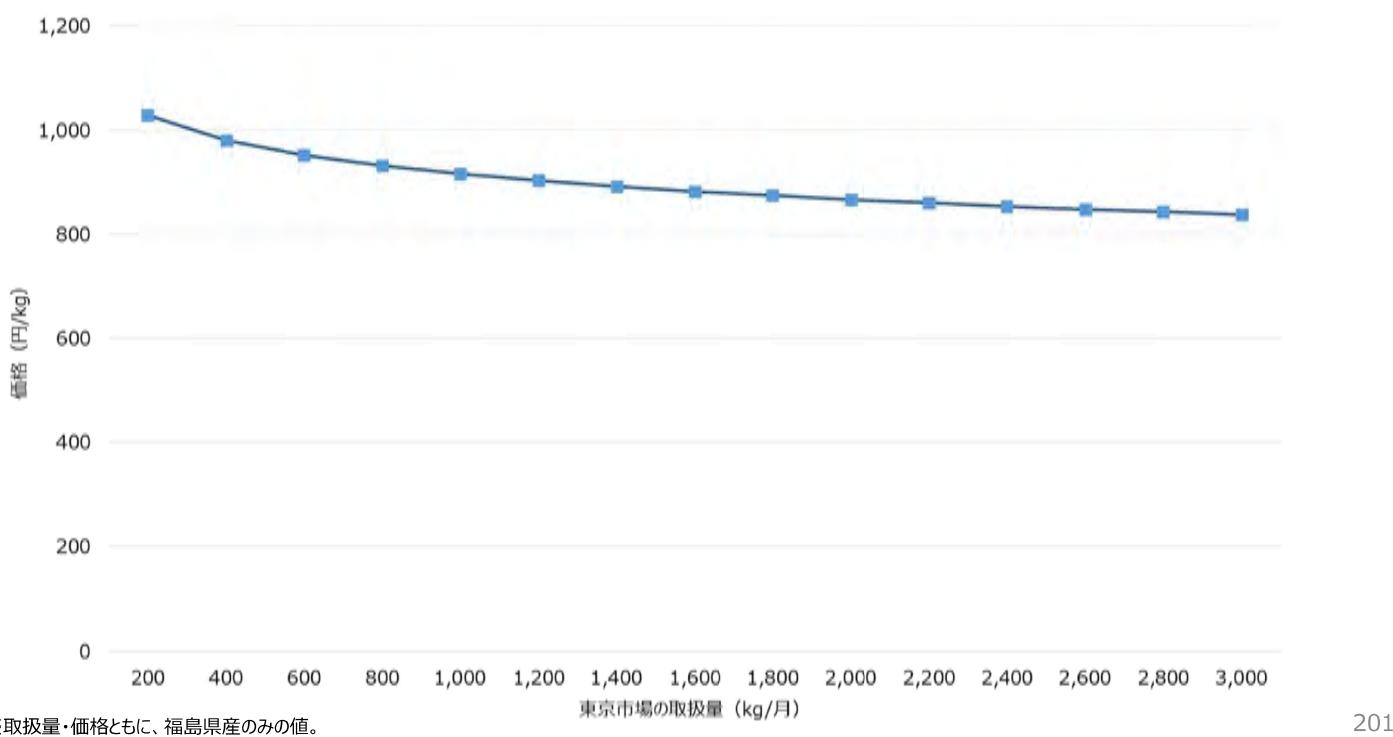
※東京中央卸売市場「市場統計情報」。

200

マアナゴの分析結果（平均的な月）

統計分析を基に、市場取扱量と価格の関係性を表すグラフを作成した。このグラフから、東京都中央卸売市場での取扱量が多くなると価格が低下するが、価格の低下は緩やかであることが確認できる。

東京都中央卸売市場におけるマアナゴの取扱量と価格の関係（予測、平均的な月）

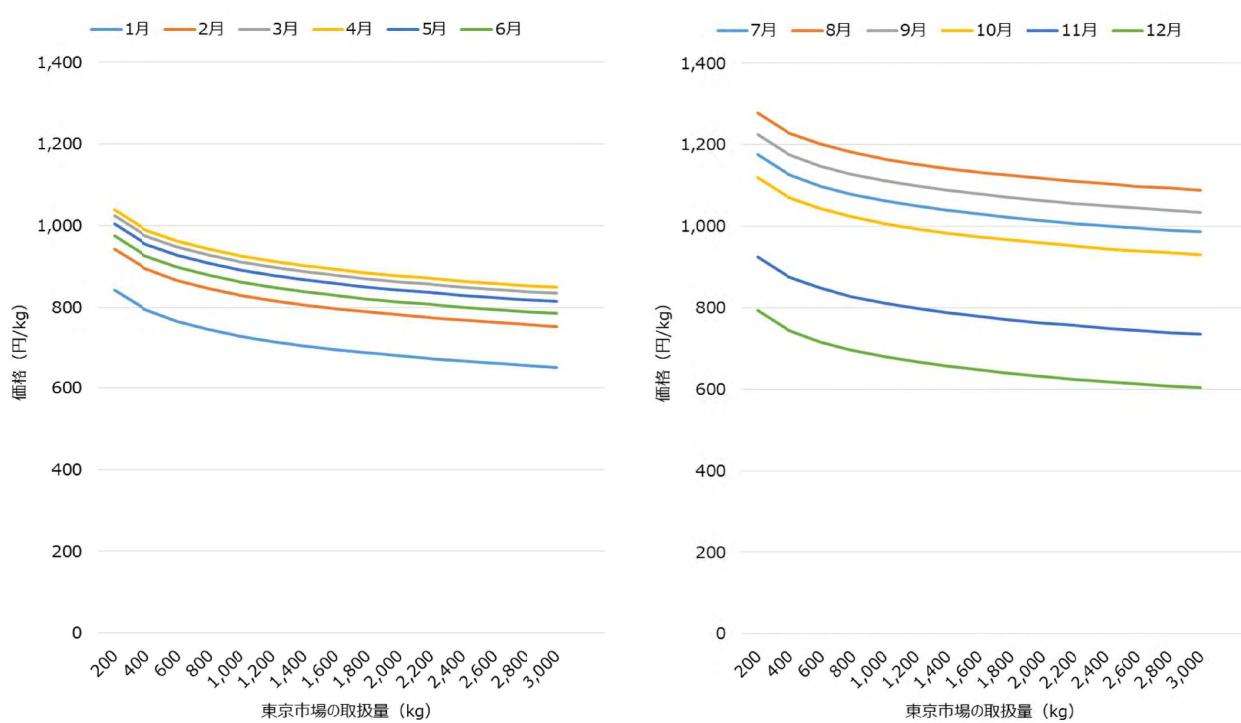


201

マアナゴの分析結果（月別）

東京都中央卸売市場における福島県産マアナゴの取扱量と価格の関係を分析し、月ごとに取扱量から価格を予測できるようにした。価格への影響は、市場取扱量の影響よりも季節性の影響が大きいことが分かる。

東京都中央卸売市場におけるマアナゴの取扱量と価格の関係（予測、月別）

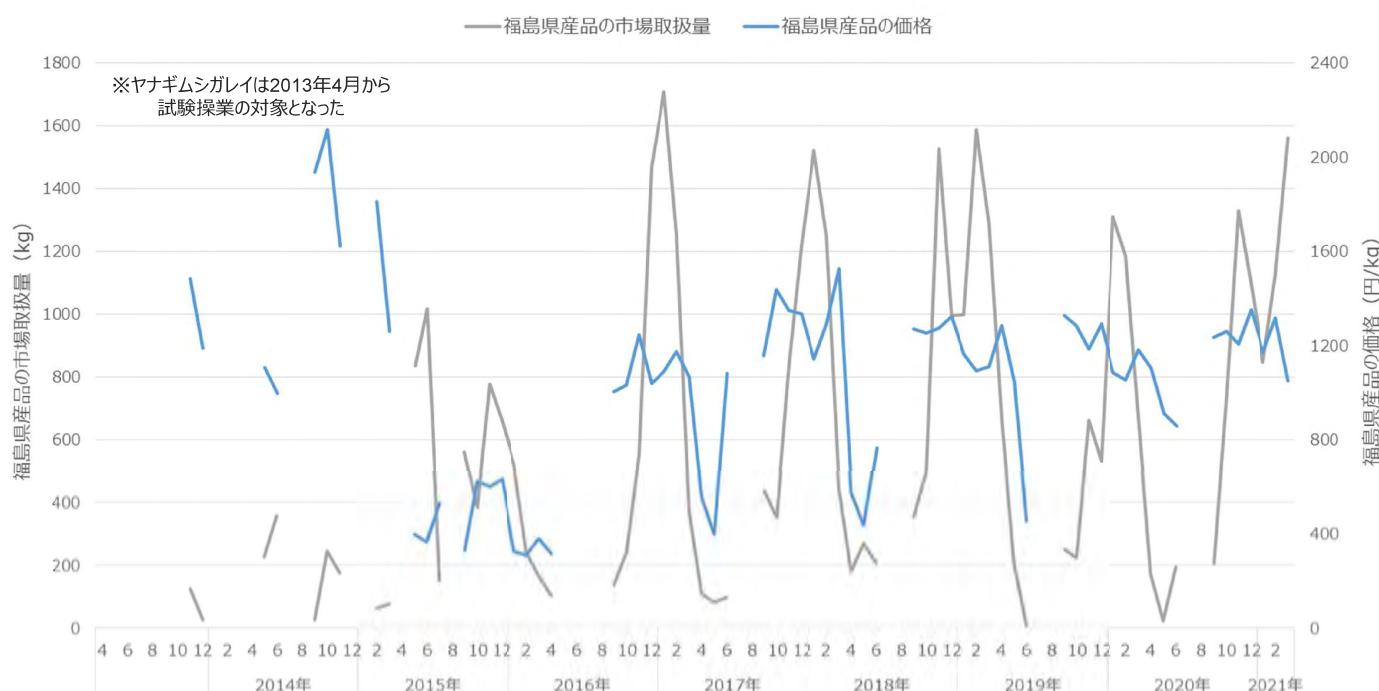


202

ヤナギムシガレイのデータの概観

ヤナギムシガレイに関しては、秋から冬以外の市場取扱量がわずかであることから、9月から3月のみを分析対象とした。なお、試験操業の対象となった直後は市場取扱量が不安定であったことから、本分析では2016年9月以降のデータのみを使用した。

東京都中央卸売市場における福島県産ヤナギムシガレイの取扱量と価格（実績）



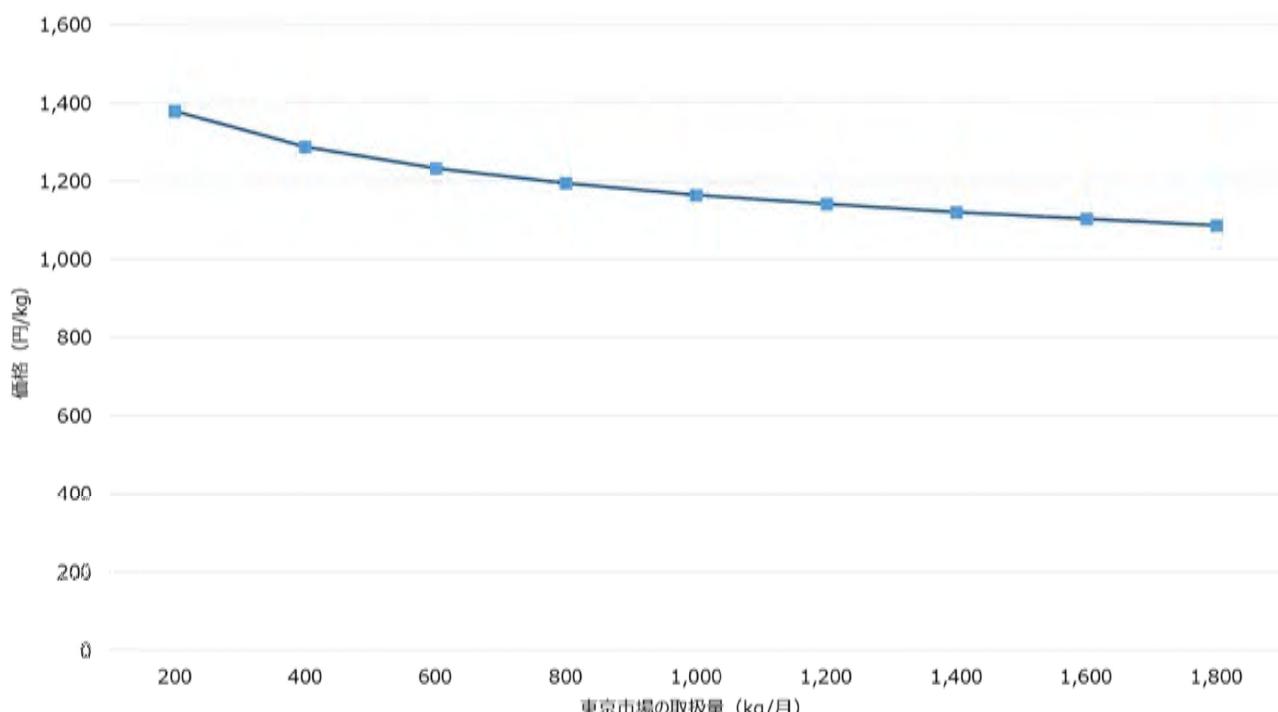
※東京中央卸売市場「市場統計情報」。

203

ヤナギムシガレイの分析結果（平均的な月）

ヤナギムシガレイについても、市場取扱量と価格の関係性を表すグラフを作成した。ヤナギムシガレイの価格には、福島県以外の産地の取扱量とも相関が見られたため、予測の際に他産地の取扱量として過去5年間の平均値を使用している。

東京都中央卸売市場におけるヤナギムシガレイの取扱量と価格の関係（予測、平均的な月）



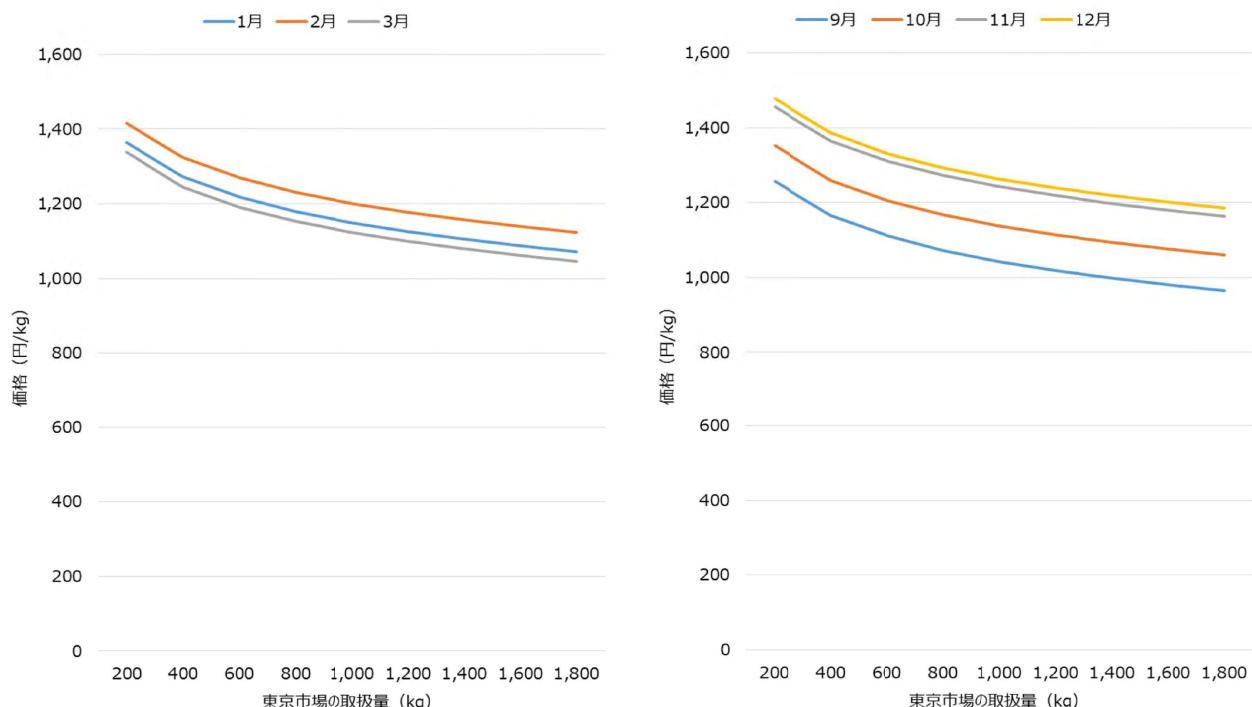
※取扱量・価格ともに、福島県産のみの値。

204

ヤナギムシガレイの分析結果（月別）

ヤナギムシガレイに関して、月ごとに取扱量から価格を予測した。ヤナギムシガレイの旬を考慮して、秋から冬のみを対象としている。

東京都中央卸売市場におけるヤナギムシガレイの取扱量と価格の関係（予測、月別）



※取扱量・価格ともに、福島県産のみの値。

205

ヒラメのデータの概観

ヒラメに関しては、夏に福島県産品の市場取扱量が少なく、価格も高いという傾向が見られる。なお、試験操業の対象となった直後の2016年8月と9月は、極端に漁獲量が少なく分析対象から除外した。

東京都中央卸売市場における福島県産ヒラメの取扱量と価格（実績）



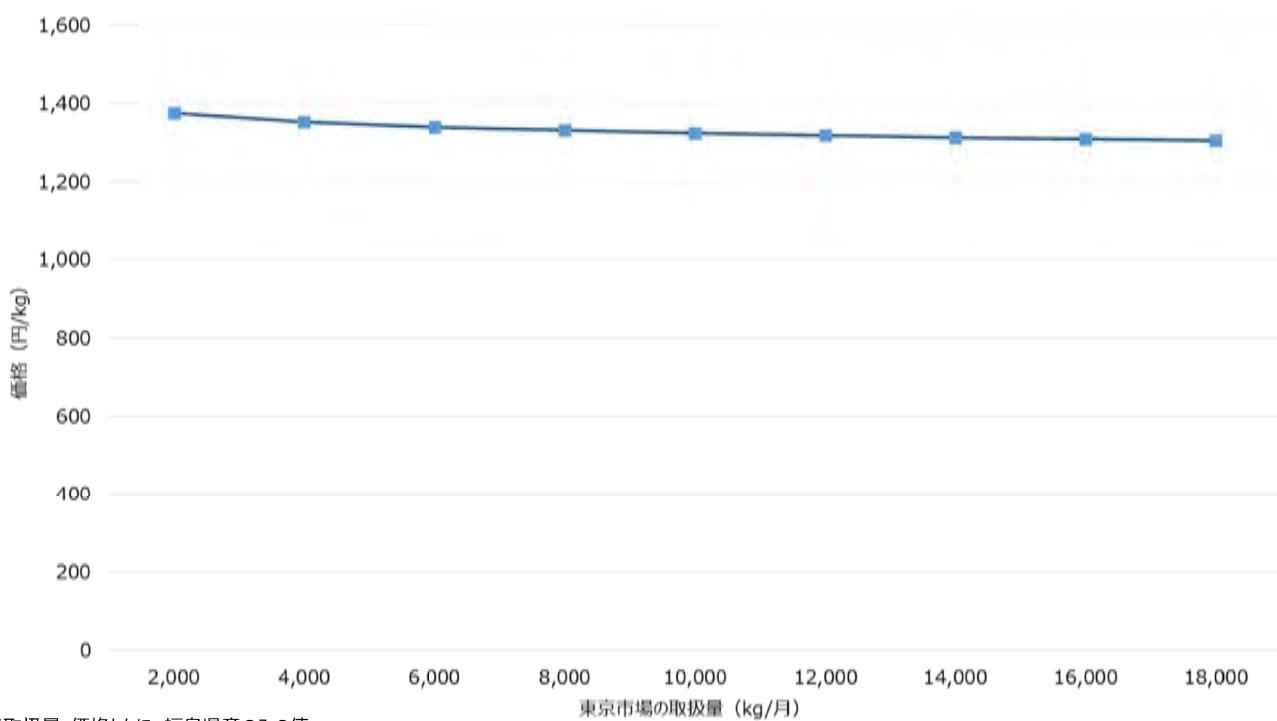
※東京中央卸売市場「市場統計情報」。

206

ヒラメの分析結果（平均的な月）

福島県産ヒラメの取扱量の価格への影響はわずかであった。ただし、ヒアリングを行った卸売業者からは、ヒラメは入荷量が多いときには魚体のサイズが大きいために、量の割に価格が安い可能性があると指摘されており、結果の解釈には注意が必要である。

東京都中央卸売市場におけるヒラメの取扱量と価格の関係（予測、平均的な月）

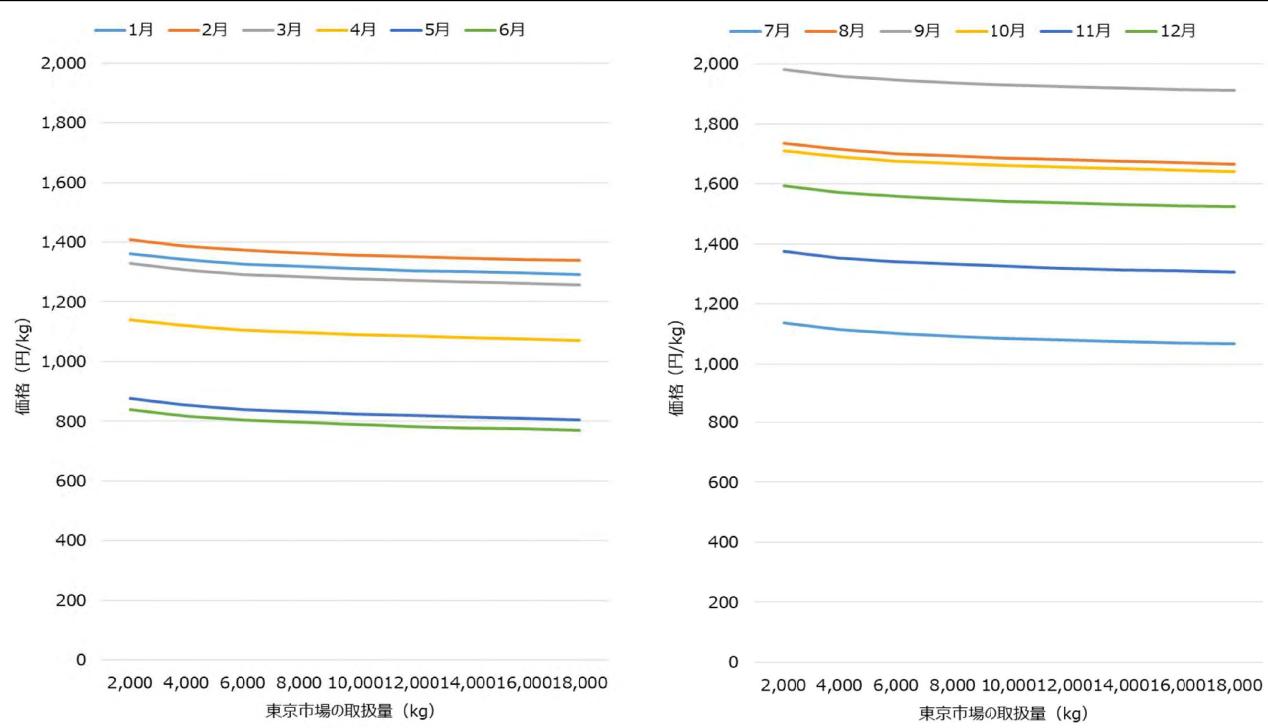


207

ヒラメの分析結果（月別）

季節性を考慮して、東京都中央卸売市場における福島県産ヒラメの取扱量と価格の関係を月ごとに示した。福島県産ヒラメの価格には、市場取扱量よりも季節性の影響が大きかった。

東京都中央卸売市場におけるヒラメの取扱量と価格の関係（予測、月別）



208

3. 調査のまとめと今後の方向性の提案

209

調査のまとめと今後の方向性の提案

本調査において、福島県産水産物の流通に関する事業者にヒアリングを行い、現状と課題を把握することができた。また、東京都中央卸売市場における福島県産品のデータを分析したところ、価格には、取扱量よりも季節性の影響が大きいことが明らかになった。

本調査の概要と、得られた情報・成果

- 試験操業終了後も、漁獲量はわずかしか増えていない。
- 未だに福島県産水産物を取り扱わない量販店やデパート等が存在。
- 震災前と比較して販売数量が少ないことに加えて、消費地市場における安値と産地市場の高値により、産地仲買業者の経営に課題が生じている。
- ヒアリングを行った事業者の多くは今後の取扱量増加に前向きであり、漁獲量増加を望む声があがつた。また、販売のためには漁獲量増加だけでなく、安定した量の漁獲をすることも必要であるとの指摘がなされた。
- 東京都中央卸売市場における福島県産品のデータを分析し、価格には、取扱量よりも季節性の影響が大きいことが明らかになった。

本調査からの示唆

- 流通事業者の要望する漁獲量増加や安定供給に向けて、関係者と連携し、出荷量の増大を計画的に取り組むことが大切。
- 消費地市場のデータ分析においても、供給量の増加による価格への影響は大きくなかった。
- 未だに福島県産品を取り扱わない事業者への働きかけや、産地仲買業者の経営問題への対応を考える必要がある。

今後の課題

- 出荷量の増大に計画的に取り組むにあたり、継続して市場動向などを確認し、状況を把握することが望ましい。
- 未だに福島県産水産物の取扱いを避ける事業者について、更なる情報収集が必要。
- データ分析に関しては、規格やサイズといった情報が存在しなかつたため、更なるデータの収集をすることでより高精度な分析ができる可能性がある。

210